



特別支援教育の
一層の充実を目指して
新潟県特別支援教育研究会
会長 後藤 和広

令和6年度、新潟県特別支援教育研究会の会長を仰せつかりました、新潟市立鏡淵小学校 後藤和広と申します。

4月以降、当会の役員の方々と、「これまでの取組」「今後の方向性」などに関わって話し合いをさせていただく中で、会員の皆様が目の中の児童生徒の成長を願い、個々の教育的ニーズに応じた指導・支援を工夫して行っていること、そして、互いの指導・支援について伝え合い、語り合うことを通して、各地区における特別支援教育が大きな成果を上げてきていることを改めて感じています。今後も会員の皆様から変わらぬお力添えをいただき、新潟県の特別支援教育の一層の充実に向け、精いっぱい務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

5月下旬に全日本特別支援教育研究連盟の理事・評議員研究協議会が東京で行われ、私もその会に参加してきました。研究協議では、国がこれまで進めてきた取組を踏まえ、主に次の観点から活発な意見交換がなされました。

- ・ 特別支援教育推進に向けた自治体での体制整備
- ・ 各校における校内指導体制の整備と改善
- ・ 教員の専門性向上に向けた取組
- ・ 先々を見据えての人材育成

協議の中で繰り返し語られていた、「私たちは今、特別支援教育を中心に据えた学校づくりと学校運営が求められている」という言葉も私の心にとっても印象深く残っています。

新潟県特別支援教育研究会は、特別な支援を必要とする児童生徒に対する教育の推進を図ることを目的としており、県内の特別支援学校及び、特別支援学級、通級指導教室設置校の皆様、当会の取組にご賛同いただいた学校の皆様により構成されています。会員の皆様が、これからも個々の児童生徒のニーズに応じた教育活動をよりよく進めていくことができるよう、事業の進め方などについて検討を重ねていきたいと考えています。

今年度は8月上旬に新潟県特別支援教育研究大会 上越大会と長岡大会が、そして11月下旬に新潟大会が開催されます。

また、令和7年8月1日には、新潟県特別支援教育研究大会 新潟大会を開催します。この大会は、令和8年10月15・16日に新潟市で開催する、全日本特別支援教育連盟主催の全国研究大会に向けたプレ大会としても位置付けています。今年度から3年間で行っていく研究大会は、それまで会員が積み上げてきた取組の成果を広く発信していく貴重な機会になります。

来年度以降の県及び全国研究大会の概要・大枠については先般の理事・評議員会において協議と確認を行いました。今後、各専門部の方々を中心に検討や準備を進めていただくこととなります。今年度の各地区研究大会の運営にあたってくださる皆様、そして、令和7・8年度の研究大会に向けた準備を進めてくださる皆様に心より感謝申し上げます。

当会では、これからも会員の皆様、そして関係機関の方々との連携を深め、特別な支援を必要とする児童生徒への教育の一層の充実を目指してまいります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

令和6年度 主な事業について

○理事会・評議員会

第1回理事会・評議員会

(Zoomによるオンライン開催を5月に実施)

第2回理事会・評議員会

(1月にZoomによるオンライン開催を予定)

○研究大会

- ・ 上越地区上越大会 (8月2日実施予定)
- ・ 中越地区長岡大会 (8月5日実施予定)
- ・ 下越地区新潟大会 (11月27日実施予定)
- ・ 佐渡地区大会 (今年度は開催なし)

○研究部会

- 知的障害部 自閉症・情緒障害部
- 肢体不自由・病弱・身体虚弱部
- 言語・難聴部 視覚障害部
- 特別支援学校部

○全特連関係

- ・ 全日本特連全国大会福井大会
- ・ 関東甲信越地区大会千葉大会

○会報

- ・ 129号(7月), 130号(2月)

全 て の 子 供 の 可 能 性 を 引 き 出 す



県教育庁義務教育課
特別支援教育推進室
室長 根谷 聡

1 はじめに

会員の皆様には、本県の特別支援教育の推進にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。障害者権利条約の批准によりインクルーシブ教育システムの構築が本格的に始まってから、国が構築の目途としていた10年が経過しました。この期間、本県においては、会員の皆様を含む特別支援教育の関係者が中心となって、障害のある子供の教育的ニーズに的確に対応すべく、多様で柔軟な学びの場の整備や合理的配慮に基づいた指導・支援の提供に努め、着実にシステムの構築を進めてきたところです。今、インクルーシブ教育システムは、「構築」から「推進」のフェーズへ移行しています。この「推進」が力強く確かなものとなるよう、引き続き積極的な取組をお願いします。

2 特別支援教育に係る動向を踏まえて

昨年の6月、第4期となる教育振興基本計画が閣議決定されました。この計画は、教育基本法に基づいて政府が策定する教育に関する総合計画で、5年間の国の教育政策全体の方向性や目標、施策などを定めています。第4期の計画のコンセプトとして、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられています。ウェルビーイングは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念です。このコンセプトを受けて、教育政策に関する基本的な方針が示されていますが、その一つに「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」があります。子供が抱える困難が多様化・複雑化する中、インクルーシブ教育システムの推進により多様な教育的ニーズに対応することや、支援を必要とする子供の長所・強みに着目する視点を重視し、多様性、公平・公正、包摂性のある共生社会の実現に向けた教育を推進することなどが方針の内容となっています。

この方針では、障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶことが考え方のベースにあります。誰一人取り残されず、相互に多様性を認め、高め合い、他者の

ウェルビーイングを思いやることのできる教育環境を個々の状況に合わせて整備することで、つらい様子の子供が笑顔になり、その結果として自分の目標をもって学習等に取り組むことのできる場面を一つでも多く作り出すことが求められています。また、その際には、支援を必要とする子供やマイノリティの子供の他の子供との差異を「弱み」として捉え、そこに着目して支えるという視点だけではなく、そうした子供たちがもっている「長所・強み」に着目し、可能性を引き出して発揮させていく視点（エンパワメント）を取り入れることも重視されています。このことにより、マイノリティの子供の尊厳を守るとともに、周りの子供や大人が多様性を尊重することを学び、誰もが違いを乗り越え共に生きる共生社会の実現に向けたマジョリティの変容にもつなげていくことが重要であると述べられています。

こういった考え方は、特別支援教育に携わる我々にとっては、決して新しいものではなく、これまで大切にしてきたものですが、目の前の全ての子供の可能性を引き出し、社会が多様性を包摂する成熟したものへと昇華できるように、改めて認識を高め取組を進めていく必要があると考えます。

現在、本県でも次期の新潟県教育振興基本計画の策定に向けて、施策の展開等について検討を始めています。多様な学びの場は、それぞれに専門的な教育が行われる場であるとともに、連続性があり柔軟な対応が可能で、障害の有無に関わらず豊かな交流がなされる場であるべきと考えています。

そのために、子供の状況や願いに応じた適切な就学先の決定、障害の程度や成長に合わせた柔軟な教育課程の運用、交流及び共同学習の促進、早期からの関係機関との密接な連携による効果的な指導・支援の提供などが重点と考えています。

策定はまだ先ですが、貴会の皆様には、「全ての子供の可能性を引き出す」ことができるように、策定を待つことなく取組を進めていただくようお願いいたします。

3 おわりに

昨今、国内でインクルーシブ教育を巡る議論が活発になっています。日本型のシステムの発展かフルインクルーシブへの転換かなど、まだ方向性は揺れているところですが、貴会におかれましては、取組を一層充実され、向かうべき先への方向付けに寄与していただけることと期待しております。

令和6年度 県特支研 役員

※敬称略

会長	後藤 和広(鏡淵小)		
副会長	泉 豊(南本町小) 熊倉 隆司(裏館小) 阿部 隆一(新潟市立東特別支援)		
理事	小林 朋広(新井中央小)	岩田 正行(田尻小)	五十嵐 恵一(千手小)
	前田 友晴(今町小)	竹垣 雅彦(北辰小)	伊藤 裕之(両川中)
	間嶋 哲(新津第一小)	江口 滋(万代長嶺小)	土田 亮(女池小)
	小野沢 謙一(外ヶ輪小)	鈴木 得夫(さんぼく小)	山崎 浩志(五泉小)
	石塚 間継(真野中)	辺見 亘(県立はまなす特別支援)	
会計監査	富永 浩文(糸魚川小)	内藤 貴志(新町小)	鈴木 正彦(水原小)

令和6年度 県特支研 評議員

※敬称略

上越	饒村 泰世 (飯小) 佐藤 則子 (三和中)	柏崎・刈羽	鈴木 康幸 (日吉小) 高橋 明大 (松浜中)
糸魚川	松岡 貴徳 (能生小)	妙高	清水 登紀子 (妙高小)
長岡・三島	中島 喜美子 (栖吉小) 菊地 一秀 (大島中)	三条	池田 岳康 (長沢小) 田村 和弘 (第一中)
燕・弥彦	坂内 克明 (燕西小)	加茂・南蒲	小田 貴樹 (葵中)
見附	永井 智祐 (名木野小)	小千谷	高橋 豊 (小千谷市立総合支援学校)
十日町・中魚	山川 和子 (川治小)	魚沼	大関 みどり (広神西小)
南魚沼	角谷 文昭 (湯沢中)	新発田	磯部 裕之 (猿橋小)
北蒲	藤井 政明 (蓮野小)	胎内	高橋 路子 (きのと小)
村上・岩船	櫻井 雅之 (関川中)	五泉	佐藤 元 (五泉北中)
阿賀野	樋口 憲哉 (堀越小)	東蒲原	高松 豊 (津川小)
佐渡	小田 俊裕 (加茂小)	新潟・北区	川又 由香 (岡方第一小)
新潟・北区	遠藤 禎 (早通中)	新潟・東区	藤田 滋 (江南小)
新潟・江南区	岡田 義則 (早通小)	新潟・秋葉区	松島 慎一郎 (小合小)
新潟・南区	中川 日里 (小林小)	新潟・西区	佐久間 郁子 (山田小)
新潟・西蒲区	藤崎 直子 (升湯小)	視覚障害	岡村 浩之 (県立よつば学園)
聴覚障害	生方 清司 (県立長岡聾)	病弱	森田 隆行 (県立吉田特別支援)
肢体不自由	長谷川 修 (県立上越特別支援)	知的障害	樋口 尚 (新大附属特別支援)

県特支研のホームページをご覧ください。

- 県特支研の役員、事業、会報などの情報や特別支援学校へのリンクはこちらです。
- 地区大会や研究部研修会の情報はこちらから。
- 全特連関ブロ大会等の様子を紹介します。全特連HPへリンクされています。その他、新潟県の特別支援教育に関する情報をお伝えします。

新潟県特別支援教育研究会

URL
<http://www.niigata-inet.or.jp/kentokusiken/>
 E-mail
tokusi@niigata-inet.or.jp

令和6年度 各研究研修部の活動

自閉症・情緒障害部 事務局:長岡市立千手小学校

7月26日の13:30~16:00に、ご講演や執筆による活動を通して全国の支援者にヒントを与え続けてくださっている星槎大学の阿部利彦教授より「人的環境のユニバーサルデザイン~より多くの子どもたちが安心できる学びの場づくり~」のご講演をいただきます。

当日は、子どもたちの心理やおかれた環境から行動の原因をさぐり、様々な事例を踏まえ、明日から使える具体的な手立てなども紹介していただきます。子どもたちが安心して過ごすことができる環境について、皆様で考える機会にしたいと思います。

知的障害部 事務局:新潟市立新津第一小学校

8月8日に新潟市秋葉区文化会館において、県立吉田特別支援学校教頭の船山和利様より「どうする?どうなる?あの子の将来~特性のある子どもの進路指導を考える~」という演題でご講演いただく予定です。「高等学校における通級による指導」担当として生徒・保護者とかかわってこられた講師先生の具体的な実践をお聴きします。小・中学校の先生方も「特性のある子」の進路選択肢(その後)を知ってもらい、面談の進め方等を学ぶことができます。多くのご参加をお待ちしております。

言語・難聴部 事務局:新潟市立万代長嶺小学校

7月31日に総会を実施後、東京学芸大学教育学部准教授の大鹿綾様より「発達障害を併せもった難聴児の指導(仮)」というテーマでZoomを用いてご講演をいただく予定です。

現在、様々な障害を併せもった子どもが増えています。それぞれの子どもの実態を十分に把握し、一人一人に合った適切な指導・支援を行うために、我々担当者は障害特性や有効な手立てについて学び続ける必要があります。多くの指導経験のある大鹿様よりお話をお聞きし、これからの指導に生かしていこうと考えております。

視覚障害部 事務局:新潟よつば学園

目や見え方に支援を要する児童生徒への配慮事項や支援の在り方、視覚障害教育について研鑽を積むことができるように、「目や見え方ネットワーク協議会」を2回(6月、12月)、総会及び専門家による講演の研修会(8月)を計画しています。「目や見え方ネットワーク協議会」では弱視疑似体験や実践報告、情報共有等の協議を行います。今年度の研修会では、帝京平成大学の田中良広先生より、弱視教育の基礎基本をお話していただきます。弱視教育の研修会は貴重な機会です。視覚障害部員以外の参加も大歓迎です。ご興味のある方はご連絡ください。

○今年度の肢体不自由・病弱・身体虚弱部(事務局:見附市立今町小学校)では、リーフレットを作成予定です。

県特支研だよりNo.「129号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が特別支援教育の一助となることを願っております。(事務局)